



## 《将来に向けた取組方針》

アステラスは、すべての事業領域において事業活動が生態系に及ぼす影響を把握し、その低減に努めることにより、生物多様性の維持・保全に積極的に貢献します。また、生物多様性が維持・保全され、生態系からの恵みを持続可能な状態で利用できる自然と共生した社会づくりに貢献します。さらに、遺伝資源を含む生物由来物質は、医薬品やワクチンの一部として利用されており、遺伝資源の利用から生じる利益の公正な分配を定めた生物多様性条約および名古屋議定書が定める原則を支持します。気候変動対策、環境汚染対策、資源循環などの取り組みを進め、生物多様性に与える総合的な環境負荷の低減に努めます。

## < 具体的な取り組み事例 >

### 生物多様性指数

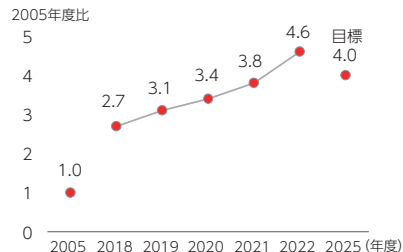
アステラスは、生物多様性の劣化をもたらす危機を気候変動、環境汚染、および資源消費に分類し、生物多様性への影響を評価する指標としています。2022年度の生物多様性指数は、2005年度の4.6倍に改善しました。引き続き、現在の活動を継続していきます。

### ケリー工場（アイルランド）の取り組み

ソーラーパネル、風力発電やバイオマスボイラーの導入に加え、地域社会と一体となって気候変動という課題に取り組んでいます。

工場敷地内の約20カ所に設置されている電気自動車の充電スタンドは、CO<sub>2</sub>排出量削減を目指した社員の要望を受けて導入されました。また、食品、プラスチック、紙類などの分類、および一部を堆肥化する取り組みを慣習とすることで、埋め立て処分ゼロを達成しました。さらに堆肥化装置をバイオマスボイラーに併設して発電に利用することで、循環する仕組みを実現しました。これらの取り組みは、社員自らがプロジェクトを提案し、実行しています。

### 生物多様性指数の推移



ケリー工場のソーラーパネルと風力発電